

2019年度 帝塚山学院小学校 学校評価

1. めざす学校像

- ・ 「主体的」「対話的」「探求的」「創造的」な学習を研究・実践する学校。
- ・ 礼節を重んじる立ち居振る舞いの身についた、品格ある「人」の育成する学校。
- ・ 時代を生き抜き、社会に大きく貢献できる「人間力」を育成する学校。

2. 中期的目標

(1)教育力の強化。

- ・ 教員の研修研鑽の強化による教員の質の向上。
- ・ 児童の学力向上、進路指導への取り組みの強化。
- ・ 英語教育の強化。TSSとの強固な連携。
- ・ 学習への取り組みにもかかわる生活指導の見直しと徹底。
- ・ 学校行事の見直しと強化（教育効果、社会状況に留意して）。

(2)組織力の強化。

- ・ 組織改革の実施。また、改革の早急な実行の為に、校務分掌の改編と整備。
- ・ 勤務時間管理と適材適所に必要な人材確保。
- ・ 生活指導はもちろん学習を含めた保護者への啓蒙活動・連携強化。

(3)財務力の強化。

- ・ 児童定員の確保。
- ・ その他、資金調達と運用。

3. 自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価の結果と分析

自己評価アンケートの結果と分析	学校関係者評価の結果と分析
<p>特に評価が高かった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・七夕、臨海、体育祭、音楽会などの学校行事は活発である。 ・体力テスト、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。 ・入学者を確保するための十分な募集広報活動を組織的に行っている。 ・英語教育について指導内容の精査を行い、また、英検合格に向けてのサポート講習を実践している。 ・学校ホームページで可能な範囲で学校の様子を情報公開している。 ・クラブ活動は活発に行われている。 	<p>特に評価が高かった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA行事や授業参観は、適切な頻度で行われ、学校の様子をうかがい知る機会として、機能している。 ・学校は、充実した学校行事を送っており、自主性の育成に役立っている。 ・学校は、アレルギー児童に対して保護者への事前調査、教員の研修などを行い、対応食の提供や緊急時の対応について準備している。 ・子どもたちは、安全に登下校でき、安全な学校生活を送っている。
<p>相対的に評価が低かった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小中教員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。 ・教員全体が、学校の経営指標と財務状況について理解している。 	<p>相対的に評価が低かった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校と中学校は連携できている。 ・学校は、中学校進学に関する情報を提供するなど、進学指導を適切に行っている。 ・保護者はルール・マナーを守っている。

※学校関係者評価は、全保護者を対象にアンケート調査を行っており、その結果を分析している。選択式だけでなく、自由記述欄も設けており、その結果も分析し、全教員に周知するとともに、関係部署で対策を講じるようにしている。なお、アンケート結果は、HPに公開している。

学校関係者評価委員会からの意見

○ 全般について

- ・評価が低かった項目を含め、全体的に改善されてきていると感じている。
- ・近年の学力重視傾向にある中、学力にも力を入れつつ帝塚山学院らしさを失わないよう先生方が尽力くださっていると感じている。
- ・今回のコロナウイルスの件での行事の決断、情報の把握と配信については、とても素晴らしかったと思う。
- ・教育理念、各教科内連携、研究体制、教育体制、一貫教育、財務、役割分担、環境問題、食育など全体的には問題ないが、約2、3割の低評価をつける先生方がいることが気になる。また、なぜ低評価としたのか原因を調べておく必要がある。

・新しい先生に対しての学院の理念や体制の周知徹底と、保護者に対しての一貫した姿勢というのが、体制維持の鍵となってくるのではないかと思う。

[改善] 教員研修の機会を増やし、教育理念など低評価の項目について、原因を調べ学校として対策をしていきたい。

○ 行事について

・他行より長期の臨海や本物に触れるたくさんの体験は、机上では得ることのできない貴重な経験であり、帝塚山学院でしか経験することのできない強みであると思うので、これからも大切にしていきたいと思う。

・毎年、変わらず評価が高く、今後もこれまで通り継続し、伝統として守っていく必要性を感じている。一つ一つの行事に真剣に取り組み、ご指導くださっている先生方のご尽力に感謝し、保護者としても引き続き協力し、緊密に連携していきたいと思う。

・PTAの行事についても、先生方と保護者の連携がスムーズで、信頼関係が築けている結果だと思う。

○ いじめ問題等について

・専門チームの設置などを行っており、これからの取り組み結果を見守る必要がある。

○ ICTについて

・今回のコロナウイルスや今後の気候変動、災害による休校に対応することもできると思うので、タブレットの配布は今後必要だと思う。

・より充実した環境が整い、伝統を大切にしながらも先を見据えた革新的な教育にも力を入れられていて、教育環境はとても良いと実感している。

[改善] 1人1台のタブレットについては、今後必ず必要となってくるので、学校の方でもしっかりと検討し、早期実現に向けて、計画していく。

○ 進路指導について

・進路ガイダンス等が増え、情報を細かな分析と共に入手させていただくことが出来るようになり、満足している。引き続き続けていきたい。

・1年生から内部進学などの現状をしっかりと伝えていただくことも必要であると思う。そうすることで、保護者へ連携を促し、早期に学力の向上を目指すことが可能になってくると思う。

[改善] 現在4年生からの進路ガイダンスを実施しているが、低学年の進路ガイダンスについても、今後検討していく。

○ 学校の連携について

・質問項目の言葉の表現が広すぎるので、選択しにくいところがある。

・幼・小・中・高の一貫を入学候補生に説明会などでは、アピールしているが、事実として、エスカレーター式に中学校に上がれないなど、現実と違うことが少なからずあるように感じる。この点は、入学した後の現実と説明とで相違のないように明確な情報提供を行う

べきかと思う。

- ・内部進学を希望されるご家庭において、連携の不足を感じられているように思う。希望のコースに進学するためには、まだまだ通塾しないと模試やプレテストに対応できない現状がある。塾での大量の課題やテストをこなし、学校の評点もしっかりとらないといけないということで、苦悩されている保護者がいる。
- ・内部生としての利点あまり感じられなくなっているとする、魅力が半減するのではと危惧している。
- ・男子においては、点数だけで線引きするのではなく、「人」を育てる学校、情操教育に力を入れる学校だからこそ、点数以外のことにも目を向けていただきたい。例えば、英語の力が非常に高い、リーダーシップが取れるなど、そういった特化したものがある児童に目を向けていただきたい。そういう児童を推薦できるというのが、内部の利点であり、総合学園としての魅力なのではないかと思う。
- ・先生方には熱心にご指導いただいているのは、重々承知していますが、特に、苦戦している内部進学希望者に対して、希望が叶うような対策を講じていただきたいと願っている。そのためにも、中高との緊密な関係が必要不可欠だと思う。

[改善]今まで以上に内部進学についての説明を丁寧にする。また、中高との連携を今以上に緊密にしていく。

○ 英語教育について

- ・インター出身の児童も多くレベルの差が大きいと思われるため、公的な TOEFLprimary STEPI にて可視化した習熟度別少人数制での授業は大変良いと思う。
- ・英検取得についても希望者だけでなく、低学年から全員受験として授業でも対策いただきたい。

[改善]英検取得の指導については、英語科の教員と検討していく。

○ 保護者のマナーについて

- ・PTAの方でも注意喚起をする頻度を増やすなど、強くする予定にしています。なかなか時間はかかるとは思いますが、是非学校側からもご協力をお願いしたい。
- ・学校から保護者への連絡を徹底するなどを行っており、これからの取り組み結果を見守る必要がある。

○ 学校ホームページについて

- ・突然の休校要請に大変な年度末となってしまったが、このような期間に自主学習ができる基礎学習プリントをホームページからダウンロードできるように等、ホームページの活用をもっと進めていただけたらと思う。

[改善]学校として、ホームページの活用の仕方を検討していく。

○ 学院の今後の方向性について

- ・学校へ求められる事が日々変化する中、先生方も対応は大変だと思いますが、人と人を大切にしてくださる信念は今後変わることなく、進んでいってほしい。

4. 本年度の取組内容、及び自己評価

中期的目標	本年度の重点目標	具体的取組内容	評価指標	自己評価
<p>教育力の強化</p>	<p>教科指導の向上・学力向上への取り組み。</p>	<p>①学力育成の達成目標評価の時期と方法、補習の方法などの具体化。追試や、放課後補習のあり方を整理、明確な公表。国語。算数の習熟度別・少人数制授業の展開。長期休暇中の補習実施。TASCのさらなる充実。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを実現するための学習過程の創出と研修。</p> <p>③併設中学校の入試問題を分析とその共有。外部模試の結果を分析と情報共有。</p>	<p>①シラバスの記載事項に各単元の達成目標を明示。学校評価アンケート「学校は基礎学力をつけている。」86% 「学校は、宿題や補習などを通じて、学習内容の定着を図っている。」84%</p> <p>②研修の計画化。</p> <p>③進路指導部、教務部において過去問題の分析を行い、共有して演習授業の効果的な実践の認知度。</p>	<p>「学習指導について」に関しては、100%と高評価であった。 教科会を開き、達成目標などについて具体的に話し合う機会をこれからも続けていく。</p> <p>「校内研修（探求型学習）」に関しては74%であった。もっといろいろな研修を計画し、子どもたちの学習に役立てる工夫をする。</p> <p>「進路指導について」に関しては91%と高評価であった。これからも児童一人ひとりの適正に応じた進路指導ができるよう努力していく。</p>

中期的 目標	本年度の 重点目標	具体的取組 内容	評価指標	自己評価
教育力の強化		④シラバスの作成とそれに 応じた教材の 開発。	④作成中のシラ バスにオリジナル 教材を含めた学 習教材の使用計 画を記載。	「教育計画(シラバス)に ついて」に関しては、87% と高評価であった。 教科会を開き、教材につ いてはこれからも検討して いく。
	学級経営力 の向上。	教員研修の 継続実施。	「基礎学力の早 期定着」「協働 学習の効果的実 践」「高学年演 習学習の効果的 実践」に重点を おいた研修、研 究授業を展開。 内外から講師を 招くほか学外研 修に積極的に参 加する。	学校評価アンケート「学校 は、お子様や保護者から の相談に、丁寧に応じてい る。」91%と高評価になっ ていることから、学級経営 はこのまま、しっかりと行っ ていきたい。学習指導につ いても、保護者アンケート で90%代になるよう、努力 していきたい。
	ICT教育の 強化。	ICT教育の 研修推進。各 教室のICT 整備。 ICT教育の ビジョン策 定。	iPadのより効果 的な学習への利 用を考えての実 践への導入が行 われている。50 回以上。 ICT委員会は、 協同学習での活 用と効果的な教 科教育への導入 を教員への情報 を提供しながら 策定する。 新教室の教育的 効果の高い使用 法を検討する。	「ICTの授業実践」に関し ては、78%の評価であっ た。また、「イノベーション ルーム活用」に関しても、同 様の78%であった。90% 代になるように、教員間で しっかりと検討していきたい。

中期的目標	本年度の重点目標	具体的取組内容	評価指標	自己評価
教育力の強化	生活指導の強化。	<p>①「人間力」「生活力」を高める指導を体系化・強化。</p> <p>②PTA 役員との連絡会を実施。</p> <p>③いじめ防止対策の強化。アンケートの実施。</p> <p>④学校生活支援会議を中軸に、児童に関する情報共有を徹底。</p>	<p>あいさつや校則の順守、電車のマナーなどに関して、現状報告と指導強化の喚起を職員朝礼、学年PTAなどで教員。保護者に行っている。</p> <p>PTA 行事についても高評価の結果が得られている。</p>	<p>学校評価アンケートにおいては、「児童は、けじめのある生活を送り、仲良く楽しく活動している」が、92%の高評価。「子どもたちは、安全に登下校でき、安全な学校生活を送っている」が95%の高評価。「生活指導(しつけ)の充実」を挙げた保護者が 32%であった。また、自己評価アンケートの「児童の生活指導に学校の一貫した方針に従い、組織的に対応している」は、83%であった。組織的な生徒指導の方法の確立できつつある。</p>
	英語教育の強化。	<p>①英語教育の達成目標の策定。</p> <p>②英語コミュニケーション能力育成。</p> <p>③ネイティブ教員と高学年の授業時数を週 2 時間から3時間に増加。</p> <p>④1年生からの習熟度別指導の計画確定。</p> <p>⑤Buddy-Eルームの有効活用。</p>	<p>TOEFLprimary STEP1 による英語力の数値化と可視化を行い、指導の方向性を定める。</p> <p>モジュールにより、高学年は週 3 時間を確保する。新英語教室の有効的な活用方法を検討する。</p>	<p>学校評価アンケート「学校は、国際理解教育を積極的に進めている。」は92%と高評価であった。また、自己評価アンケートの「英語教育体制」は100%の高評価。「国際理解」についても100%と高評価である。順調に実施できているので、今後も継続する。</p>

中期的目標	本年度の重点目標	具体的取組内容	評価指標	自己評価
教育力の強化	TSS との連携	資格獲得とともに実践的な英語力の習熟を図る。	関空での外国人へのインタビュー実習などのノウハウを取り入れる。	
組織力の強化	学校行事の見直し	① 各行事における不合理な慣習については改め、教員の業務負担の軽減に努める。 ② 宿泊行事の回数、実施時期について多角的に検討し見直しを行う。 ③ 行事前後に、保護者へのアンケート調査を行う。	宿泊行事の改善点を検討する。	自己評価アンケートの「学校行事」については、100%の高評価であった。学校評価アンケートでは、「学校は充実した学校行事を行っており、自主性の育成に役立っている」は96%の高評価であった。これからも継続し、よりよい行事になるように検討していく。
	校務分掌の改編、整備。	① 管理職の業務、分掌部長の業務、組織のあり方、議論の進め方について、教員全体に周知する。 ② 実務必携の作成。	働き方改革の在り方、組織の整備と改革、業務内容の精査。	自己評価アンケートの「校務分掌」に関しては、83%の高評価であった。ただし、「会議の有効性」については、評価70%は、前年度より良い結果になった。このまま、評価が上がるように、さらなる工夫をしていく。
	児童情報に対する教員連携強化。	① siemsへの入力を徹底する。 ② 学年主任会の活用。	生活上の記録について詳細に記録し、教員が記録を見れるようにシステム化している。	自己評価アンケートの「学年担当の教員が、協力し合い、学年目標に向かって教育活動の充実を図っている」は100%の高評価。

中期的 目標	本年度の 重点目標	具体的取組 内容	評価指標	自己評価
財務 基盤 力の 強化	総合学園と しての学院 全体の発展 を目指す。	幼・小・中・高 各部の現場 教員が交流 し、情報交換 する機会の設 定。	教科別懇親会 の設定と実施。	学校評価アンケート「幼稚園と小学校は連携できている」74%「小学校と中学校は連携できている。」74%の結果であった。90%代になるよう交流が必要である。
	外部資金の 獲得	補助金申請 の取り組み強 化。	教育庁・私学課 長の視察を受け 入れて、私立小 学校の現状を説 明し、助成金の 増額を訴えてい く。	自己評価アンケート「財務に関する意識」が39%ととても低い評価になっている。教員間に財務の説明をして、理解してもらえようにする。
	定員の充足	募集広報活 動の充実。		116名入学予定。

※ 自己評価アンケート、及び学校関係者評価の「高評価」「低評価」とは、それぞれ各設問に対して「達成できている」「ほぼ達成できている」の2つを合わせて「高評価」、「あまり達成できていない」「まったく達成できていない」の2つを合わせて「低評価」とした。